

H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

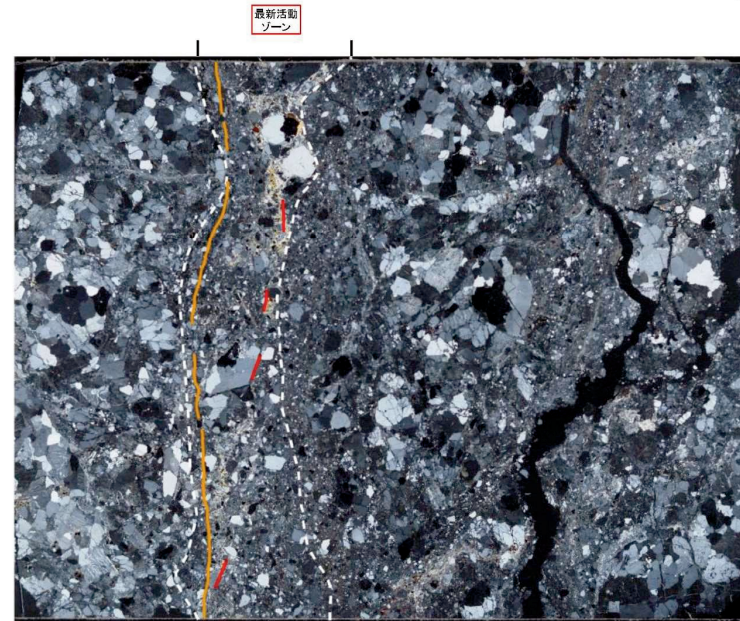
H27-B-1 深度45.36~45.39m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度45.39mにおける断層面α中の最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは変質脈に伴って認められる。直線性に乏しく、連続性に乏しい。細粒部を伴う。不明瞭である。
- ・Y面Bは直線性にやや富み、連続性に富む。細粒な岩片が多く分布し、やや不明瞭である。
- ・以上のことから、Y面Bを最新活動面と認定した。
- ・最新活動面と鉱物脈の関係について、次頁に示す。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

1cm

Z(SE)  
X(40° L)

- 凡例
- Y面A
  - Y面B
  - - - 最新活動ゾーン※
- ※ 写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない。

### 1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を74.36mに変更 (No.最-23)

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

・走向・傾斜をN15E85Wに変更 (No.最-24)

【理由】最新活動面の変更に伴い，走向・傾斜を再取得した結果に変更

・条線を54Rに変更 (No.最-25)

【理由】走向・傾斜の変更に伴い，条線を変更

・変位センスを左ずれ正断層センスに変更 (No.最-26)

【理由】変更後の最新活動面で取得したデータに変更

【断層連続性評価への影響】なし

### 2. 変更箇所

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.最-23)

b 走向・傾斜をN15E85Wに変更 (No.最-24)

c 最新活動面変更に伴い再作製した薄片観察結果に変更 (No.最-23～最-26)

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) 及び破碎部性状 (No.最-24~26) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-189頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破碎帯  
性状一覧表(17/19)

断面番号 の番号	深度 (m)	層厚 (m)	走向 (度)	傾斜 (度)	表面積 (m <sup>2</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	崩壊方向		崩壊モード		性状	写真
							上下	左右	崩壊	崩壊		
15T-B-1 (04047)	49.17	0.22	N42E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	53.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	54.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	69.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	74.36	0.14	N47E	30°	0.5	0.3	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	75.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	79.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	113.51	0.14	N47E	30°	0.5	0.3	無	-	崩	崩	崩	

**凡例**  
 最新活動面  
 崩壊方向  
 崩壊ガワシ  
 粘土の存在が認められる箇所  
 \*1 貫入  
 \*2 剥離

【破碎帯】  
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、  
 崩壊した粘土状破砕部、崩壊した砂状破砕部、  
 崩壊した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の値に換算した。  
 【平滑さ】  
 平滑：最新活動面が直線的なもの  
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-189

断面番号 の番号	深度 (m)	層厚 (m)	走向 (度)	傾斜 (度)	表面積 (m <sup>2</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	崩壊方向		崩壊モード		性状	写真
							上下	左右	崩壊	崩壊		
15T-B-1 (04047)	49.17	0.22	N42E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	52.72	0.21	N47E	30°	0.7	0.4	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	52.72	0.22	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	69.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	74.36	0.14	N47E	30°	0.5	0.3	無	-	崩	崩	崩	
15T-B-1 (04047)	79.7	0.21	N47E	30°	0.8	0.5	無	-	崩	崩	崩	

**凡例**  
 最新活動面  
 崩壊方向  
 崩壊ガワシ  
 断層角礫  
 カラーバーが付いていない区間はカタクリサイトを示す

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、赤線「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、許容値を補正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(同成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 -(上記以外)- データを取っていない箇所

図7.4.4.413図 (2) 破砕部性状一覧 (H27-B-1)  
 6-7-1590

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) 及び破砕部性状 (No.最-24~26) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料1  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料1 薄片観察結果  
参考1-238頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

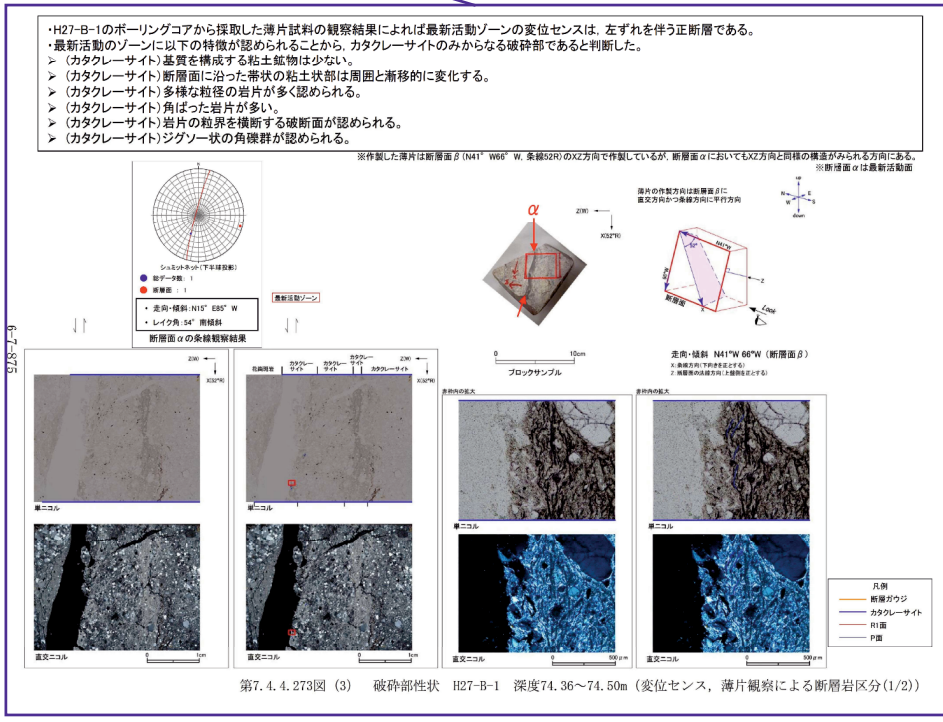
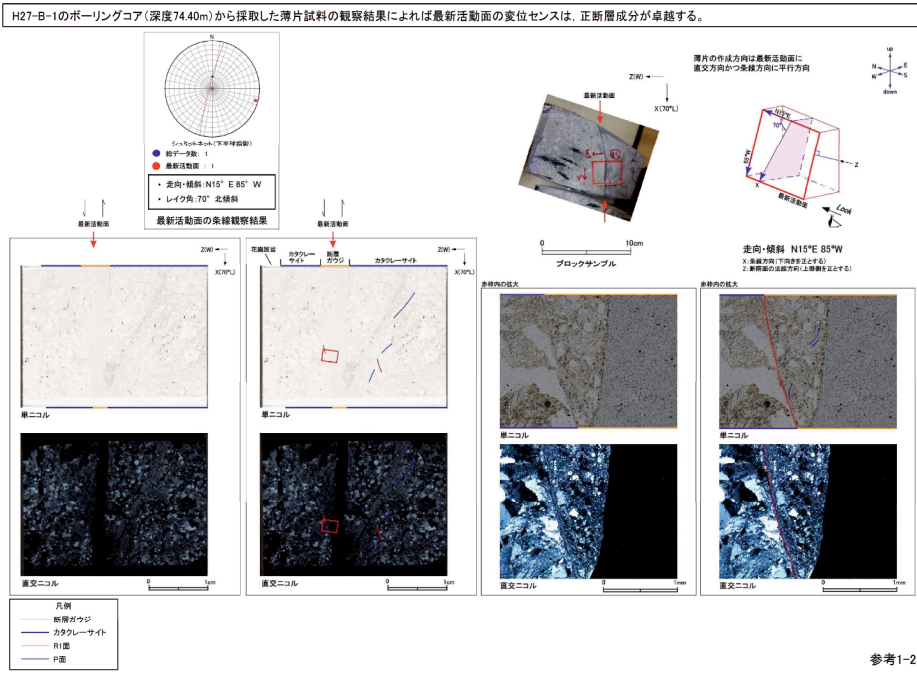
No.最-23~最-26

従前のデータに基づく薄片観察結果

No.最-23~最-26

変更後のデータに基づく薄片観察結果

非モデル化破砕部 薄片試料観察(H27-B-1 深度74.40m)



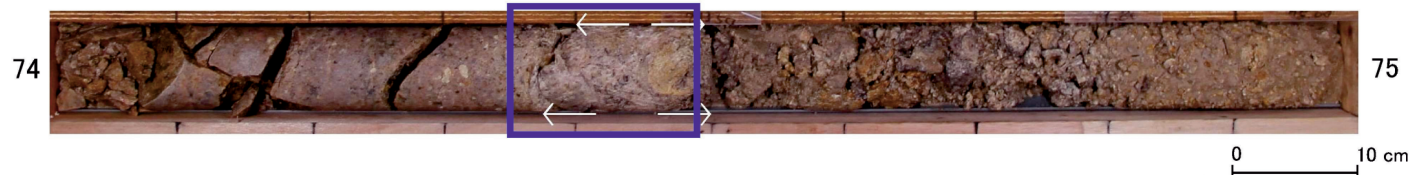
H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H27-B-1深度74.36~74.50mの破碎部における最新活動面は74.36mの断層面であるため変更した。

H27-B-1 深度74.36~74.50m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度74.36mに断層面  $\alpha$  が、深度74.40mに断層面  $\beta$  が認められる。
- 断層面  $\alpha$  は、湾曲及び凹凸が少なく、連続性に富む。また、不連続部が認められず、直線性に富む。
- 断層面  $\beta$  は、細粒部を伴い、湾曲が認められ直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。

コア写真

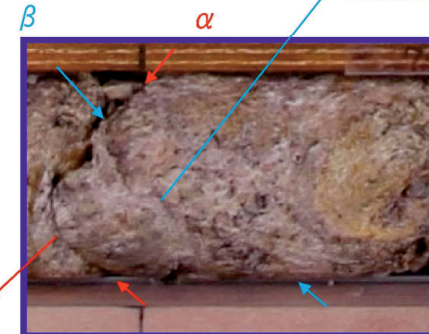


ボーリング柱状図

● 74.36~74.50m : 破碎部  
 74.36~74.40m : 礫質砂状部 (Hb)  
 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅0~30mm。  
 74.40~74.41m : 粘土状部 (Hc-1)  
 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅7mm。  
 74.41~74.50m : 礫質砂状部 (Hb)  
 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。

凡例  
 ← → 破碎部範囲\*  
 ※:写真上は白色で記載

細粒部を伴い、湾曲が認められるが、不連続部は認められない



湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない

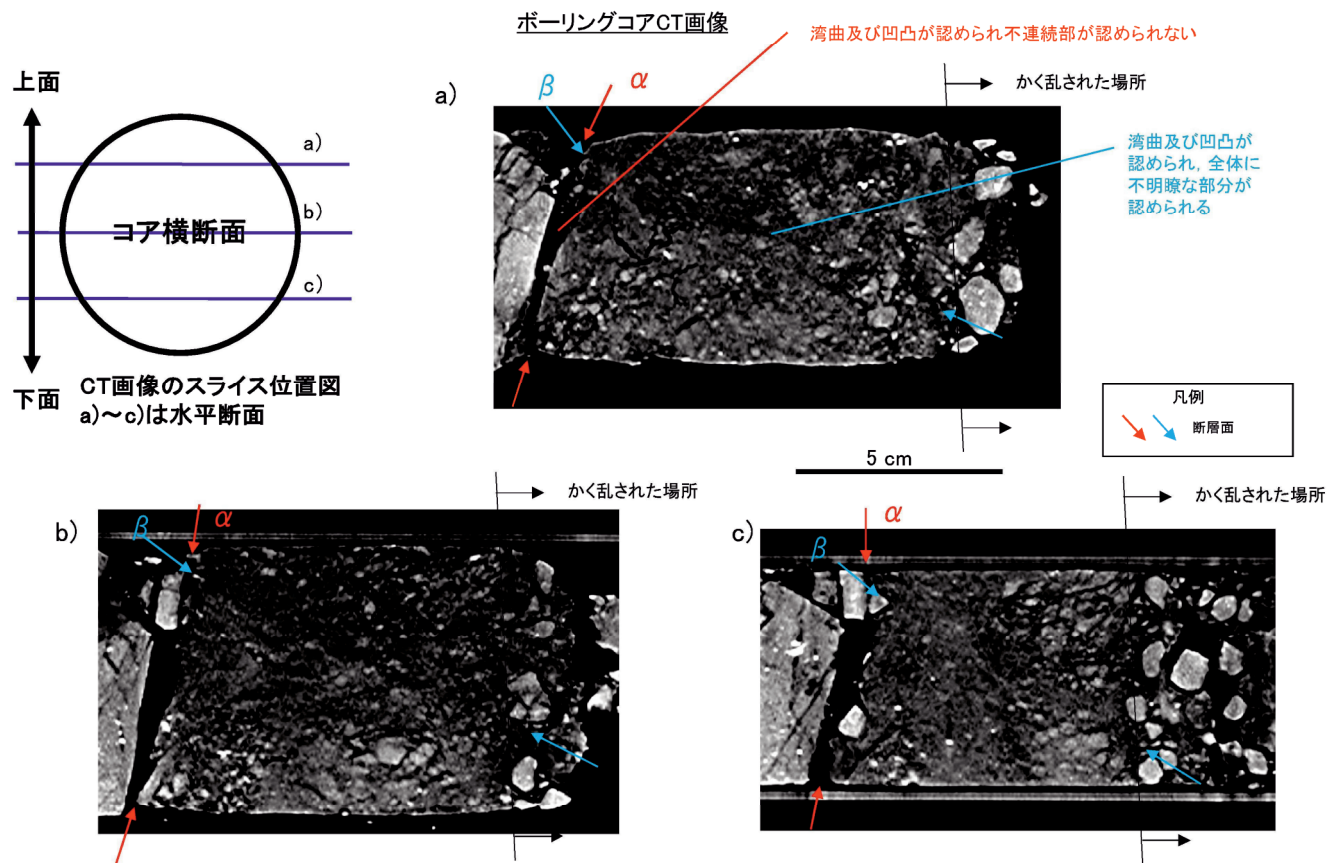
0 5 cm

凡例  
 ↓ ↑ 断層面

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) を変更

H27-B-1 深度74.36~74.50m CT画像観察 断層面の認定

- CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 $\alpha$ 及び断層面 $\beta$ が認められる。
- 断層面 $\alpha$ は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しく、不連続部が認められず連続性に富む。
- 断層面 $\beta$ は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しく、全体に不明瞭な部分が認められ、連続性に乏しい。

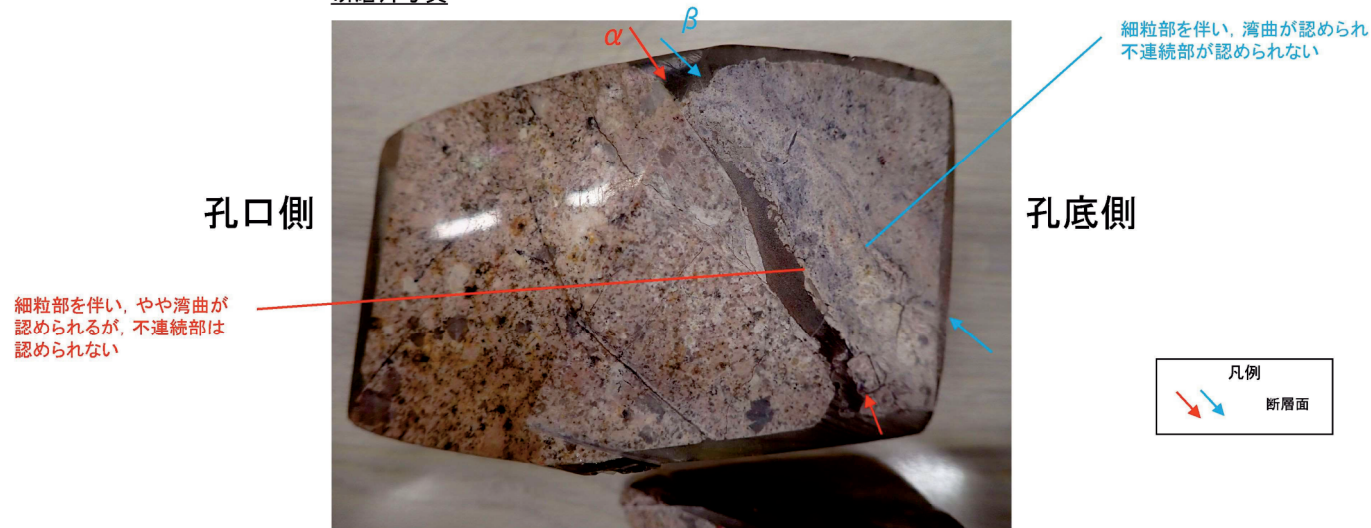


H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) を変更

H27-B-1 深度74.36~74.50m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、ボーリングコア観察の結果と同様に断層面 $\alpha$ 及び断層面 $\beta$ が認められる。
- ・断層面 $\alpha$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、やや湾曲して直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 $\beta$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲して直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、断層面 $\alpha$ の方が相対的に直線性・連続性に富むが、断層面 $\alpha$ は大部分が開口しており、断層面 $\beta$ にも細粒部を伴うことから両断層面を検討対象とした。

研磨片写真



孔口側

孔底側

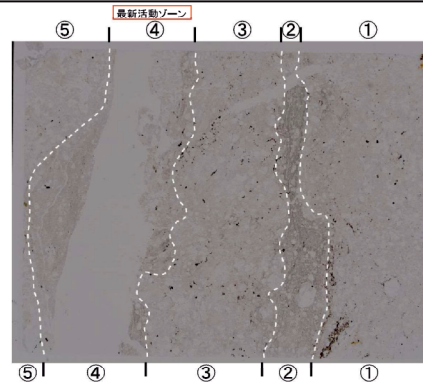
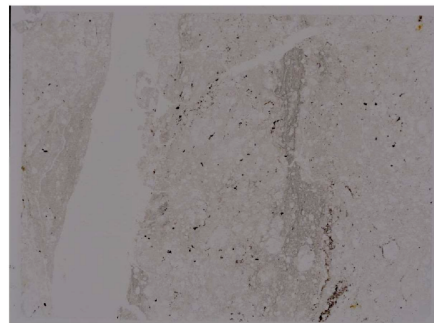
5 cm

※断層面 $\beta$ に直交に切断

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) を変更

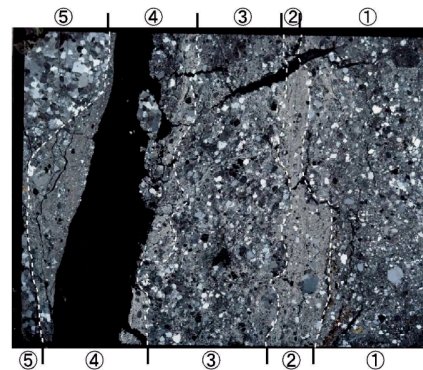
H27-B-1 深度74.36~74.50m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量が少なく、定向配列は認められない。岩片は②のゾーンより多い。角ばっている岩片が多い。
  - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量が少ないが、③のゾーンに比べて多い。定向配列は認められない。岩片は少なく、角ばっている岩片が多い。岩片の粒径は①及び③のゾーンより小さい。
  - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量が少なく、定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
  - ・④のゾーンは、粘土鉱物の量が少ないが、③のゾーンに比べて多い。定向配列は認められない。②のゾーンに比べて、基質が細粒で、岩片は少なく、角ばっている岩片が多い。
  - ・⑤のゾーンは、健岩部である。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ④のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。ただし、②のゾーンと④のゾーンの細粒化の程度の差はわずかであるため、②のゾーンも最新活動ゾーンの候補とした。



Z(W) ←  
↓  
X(52° R)

単ニッケル 全景写真



直交ニッケル 全景写真

凡例

----- ゾーンの境界\*

\*: 写真上は白色又は黒色で記載

1cm

1cm